

4. 各報告書の詳細

分析結果報告書確認表示用の画面はA4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

入力方法の共通的な部分は、前記の表3-4.1「各分析結果報告書の共通事項」として、「分析主担当者」、「分析主担当者の経験年数」、「分析主担当者の実績（年間の分析試料数）」、「分析(主)担当者以外の分析結果の確認」の入力方法を示しています。

また、以下に共通的な事項（注意点等）を示します。

○分析経験等

分析経験については、分析主担当者による分析経験について、該当するものを選択してください。

○分析条件等

適用している分析方法や分析機器等によっては、記入が不要な部分、記入が難しい部分等があると考えられますので、そのような場合には記入する必要はありません。

複数回測定（併行測定）では、1回目の分析条件を記入します。ただし、試料の指示値（吸光度等）等については、測定回数分を記入する場合があります。

○指示値

指示値としては、吸光度、ピーク高さ、ピーク面積等があり、内標準法ではその比（例えばピーク面積比）もあり、またそれらの比例値もあり、このように各種のものがあります。記入にあたっては、いずれの値も可能ですが、内標準法の場合は、対象物質及び内標準物質の比ではなく、各々のピーク面積等をご記入下さい。

ただし、指示値の記入欄には、検量線の最高濃度、試料、空試験の3つ（3か所）あり、記入にあたっては3か所とも同じ種類（単位）のものとしてください。

○分析結果（数値の丸め方）

分析結果については、有効数字3桁としています。数値の丸め方はJIS Z 8401に従ってください。

分析結果は必須項目です。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件でエラーメッセージ（例えば、「分析結果・・・の検出下限値以上または検出下限値未満での検出下限値のいずれかは必須項目です。該当する値を入力して下さい。」）が表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-9参照）。

○分析方法

分析方法も必須項目です。選択されていないとエラーメッセージが表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-9参照）。

○報告書の確定

ホームページでは期限内に報告書の確定を必ず行ってください（「報告書一覧表」から確定したい「報告書」を選択して、「報告書確定」をクリックしてください）。「報告書確定解除」を行った場合も、修正等の後には必ず「報告書確定」を行ってください。詳細は、前記3-8を参照ください。

○アンケート

ホームページから分析結果報告書を作成する機関を対象とした「ホームページによる分析結果報告書の作成方法に関するアンケート」及び調査参加機関を対象とした「環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケート」を実施しますので、ご協力をお願いいたします。アンケートの記入方法は、後記4-8に示しています。

4-1 分析結果報告書 [1]

表 4-1 水質試料 1 (COD) (分析結果報告書 [1])

＜分析結果＞	
分析結果	数値（半角）入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位：mg/L。試料 1L あたりの mg として記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果(検出下限値以上)	検出下限値以上では、JIS Z 8401 によって数値を丸めて分析結果を有効数字 3 桁で記入。
(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字 1 桁で記入。
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の 3 倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または 検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3 回の併行のために下記は 1~3 回で概略同様であり、1 回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3 回分を記入する。	
＜分析方法等＞	
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量 操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
＜測定条件等＞	
試料量	数値(半角)入力。単位：mL。
予備試験 (複数回答可)	コンボボックスより選択(複数選択可)。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
銀塩の使用 種類 添加量 添加後のかく拌	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL 又は g。 コンボボックスより選択し、()内に回数(単位：回/分)、又は時間(単位：分)を記入。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
水浴中の温度	数値(半角)入力。単位：℃
標準原液 (過マンガン酸カリウム溶液)	コンボボックスより選択。購入した場合には、()内にメーカー名と濃度(単位：mmol/L)を記入。
5mmol/L 過マンガン酸カリウムのファクター	数値(半角)入力。
5mmol/L 過マンガン酸カリウムの滴定量 試料の滴定量 空試験の滴定量	数値(半角)入力。単位：mL。3 回分記入。 数値(半角)入力。単位：mL。
保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	200 文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200 文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。 例(COD) 分析結果(mg/L) = (試料の滴定値 mL - 空試験の滴定値 mL) × 過マンガン酸カリウム溶液のファクター × 1000 ÷ 試料量 mL × 0.2

4-2 分析結果報告書 [2]

表 4-2 排水試料 (BOD) (分析結果報告書 [2])

＜分析結果＞	
分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位: mg/L。試料 1L あたりの mg として記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果 (検出下限値以上)	検出下限値以上では、JIS Z 8401 によって数値を丸めて分析結果を有効数字 3 桁で記入。
(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字 1 桁で記入。
(注) 検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の 3 倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値) は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3 回の併行のために下記は 1 ~ 3 回で概略同様であり、1 回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3 回分を記入する。	
＜分析方法等＞	
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。開始日は分析 (前処理操作を含む) を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
＜希釈試料の調製に用いた希釈水＞	
植種の有無 (希釈水の種類等)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
植種希釈水を使用した場合の 調製に用いた植種液の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
市販品の植種菌製剤を用いた植種液 の調製	
植種菌製剤の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
植種菌製剤と水の混合割合	コンボボックスより選択。() 内に水の量 (単位: mL) を数値 (半角) 入力。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
混合液のばっ気・攪はん等	コンボボックスより選択。() 内にばっ気・攪はん時間を数値 (半角) 入力。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
植種希釈水の調製までの時間	ばっ気・攪はん等の処理後の時間を数値 (半角) 入力。
その他、植種希釈水の調製にあたって 留意した点	200 文字以内で簡潔に記入する。
植種液の BOD	コンボボックスより選択。() 内には数値 (半角) 入力。
植種希釈水の調製 (希釈水への植種液の添加量)	() 内には数値 (半角) 入力。単位: mL。
植種希釈水の活性	コンボボックスより選択。() 内には数値 (半角) 入力。単位: BOD-mg/L。
＜試料の前処理＞	
前処理	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
＜段階的な希釈試料の調製＞	
調製した希釈試料の段階の数	数値 (半角) 入力。

希釈の方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
硝化抑制	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<培養の方法>	
培養瓶の容量	数値（半角）入力。単位：mL。
恒温（20±1℃）の方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<溶存酸素（DO）の測定>	
測定方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
3. 又は4. の方法を使用した場合について 飽和溶存酸素の表の修正および気圧（高度）の導入に係る補正等塩分補正 試料測定前の機器校正	コンボボックスより選択。「1. 実施している」を選択した場合には、「その方法」について、（ ）内に具体的に記入。 コンボボックスより選択。「1. 実施している」を選択した場合には、（ ）内の方法をコンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「1. 実施している」を選択した場合には、（ ）内の方法をコンボボックスより選択。
<溶存酸素（DO）の測定：滴定法（よう素滴定法又はミラー変法）>	
P 試料量 滴定量	数値（半角）入力。Pは希釈試料中の試料の占める割合（試料/希釈試料）を示す（P値が大きい順に記入する）。例えば、3段階希釈では、1段階：P=0.04（25倍希釈）、2段階：P=0.02（50倍希釈）、3段階：P=0.01（100倍希釈）の順のように記入する。 数値（半角）入力。単位：mL。 数値（半角）入力。単位：mL。よう素滴定法では25mmol/Lチオ硫酸ナトリウム溶液の滴定量（mL）、ミラー変法では硫酸アンモニウム鉄（II）溶液の滴定量（mL）を記入する。
<測定記録>1回目～3回目	
P 溶存酸素 溶存酸素消費率 BODの値	<溶存酸素の測定：滴定法>と同じ。 数値（半角）入力。単位：mg/L。 数値（半角）入力。単位：%。 溶存酸素の消費率（%）は $(D1 - D2) / D1 \times 100$ として算出する。 数値（半角）入力。単位：mg/L。BODの算出に用いた希釈試料（希釈段階）に該当する欄に値を記入し、他は空欄とする。
<試料の保存状況>	
保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：時間。60分では1時間とする。 数値（半角）入力。単位：℃。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	200文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-3 分析結果報告書 [3]

分析結果報告書[3]の入力方法の詳細を記します。

表 4-3 排水試料（ふっ素）（分析結果報告書 [3]）

＜イオン成分分析の経験等＞	
土壌中のイオン成分 環境水、排水等のイオン分析 PM2.5 のイオン成分	いずれも、コンボボックスより選択。
＜分析結果＞	
分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果(検出下限値以上)	検出下限値以上では、JIS Z 8401 によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。
(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注) 検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。	
＜分析方法等＞	
分析開始月日	コンボボックスより選択。開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。
分析終了月日	分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
使用した水	
＜蒸留操作＞	
試料量	数値（半角）入力。単位：mL。
濃縮	コンボボックスより選択。
蒸留 使用した酸 受器（全量フラスコ） 受器への添加 蒸留温度とその測定方法 留出速度 留出液の中和 留出液の定容量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 蒸留温度については、（）内に数値（半角）入力。単位：℃。測定方法については（）内に具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL/分。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位：mL。
＜吸光光度法＞	
前記 <蒸留操作>	コンボボックスより選択。
留出液（又は試料）の分取量	数値（半角）入力。単位：mL。 蒸留した場合は留出液の量、蒸留しない場合は試料の量を記入する。。
ランタン-アザリノコンプレキソ溶液	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定波長	数値（半角）入力。単位：nm。
＜イオン電極法＞	
前記 <蒸留操作>	コンボボックスより選択。

＜イオンクロマトグラフ法＞	
前記 <蒸留操作＞	コンボボックスより選択。
留出液（又は試料）の希釈	() 内に数値（半角）入力。蒸留した場合には留出液、蒸留しない場合には試料の希釈倍率を記入する。希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。
溶離液の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
ガードカラムの使用	コンボボックスより選択。
分離カラムの種類 メーカー 型式 製造年（又は導入年）	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 () 内に型式としてカラムの商品名（型番）を記入する。 () 内に製造年（又は導入年）を西暦（半角）で記入する。
注入量 単位	数値（半角）入力。単位：μL 上記注入量の単位についてコンボボックスより選択。
＜流れ分析法＞	
前記 <蒸留操作＞	コンボボックスより選択。
装置 メーカー（型式） 蒸留装置（型式） 製造年（又は導入年）	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。() 内に型式として機器の商品名（型番）を記入する。 () 内に製造年（又は導入年）を西暦（半角）で記入する。
測定条件等	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
注入量 単位	数値（半角）入力。 上記注入量の単位についてコンボボックスより選択。
＜検量線の作成等＞	
定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	コンボボックスより選択。 () 内に物質名を記入する。
検量線 作成点数 作成範囲 最小濃度 最高濃度 最高濃度の指示値 内標準物質の指示値	数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の量（μg、吸光度法）又は濃度（mg/L、イオン電極法、イオンクロマトグラフ法）を記入。 「ゼロ(0)」は含めない。 数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。 ピーク面積、ピーク高さ等の数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 内標準法の場合のみ、ピーク面積、ピーク高さ等の数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
検出下限値	数値（半角）入力。単位：mg/L。
分析実施にあたっての留意した点 及び 問題と感じた点	200 文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200 文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-4 分析結果報告書 [4]

表 4-4 排水試料（ほう素）（分析結果報告書 [4]）

＜重金属類の分析経験等＞	
廃棄物の重金属類成分 土壌の重金属類成分 環境水、排水等の重金属類成分	いずれも、コンボボックスより選択。
＜分析結果＞	
分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1 Lあたりのmgとして記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、分析結果を有効数字3桁（有効数字4桁目を四捨五入）で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注) 検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。	
＜分析方法等＞	
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
＜吸光光度法＞	
試料量	数値（半角）入力。単位：mL。
測定波長	数値（半角）入力。単位：nm。
＜ICP発光分光分析法＞	
ろ過等の操作	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試験溶液の希釈倍率	数値（半角）入力。希釈しない場合には「1」。
ICP発光分光分析装置 メーカー 型式 製造年（又は導入年）	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 ()内に型式として機器の商品名（型番）を記入する。 ()内に製造年（又は導入年）を西暦（半角）で記入する。
スペクトル干渉の低減又は補正 発光部(光観測方式) 分光部 検出部 バックグラウンド補正 超音波ネブライザーの使用 スプレーチャンバーの材質 測定時間 測定波長	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：秒。 数値（半角）入力。単位：nm。
装置メモリー低減対策の実施状況 (バックグラウンド低減対策) 低減方法	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。

＜ICP 質量分析法＞	
ろ過等の操作	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試験溶液の希釈	数値（半角）入力。希釈しない場合には「1」。
ICP 質量分析装置 メーカー 型式 製造年(又は導入年)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 （ ）内に型式として機器の商品名（型番）を記入する。 （ ）内に製造年（又は導入年）を西暦（半角）で記入する。
スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計 コリジョン・リアクションセル 補正式による補正 その他	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「2. 行う」を選択した場合は、使用ガスの種類についてコンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。また使用ガスの流量について（ ）内に数値（半角）入力。 単位：mL/分。 コンボボックスより選択。「2. 行う」を選択した場合は、（ ）内に「その方法」について、具体的に記入。 補正前後の指示値については、（ ）内にイオンカウントの数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。「2. 行う」を選択した場合は、（ ）内に「その方法」について、具体的に記入。
超音波ネブライザーの使用	コンボボックスより選択。
スプレーチャンバーの材質	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
装置のメモリー低減対策の実施状況 (バックグラウンド低減対策) 低減方法 使用する洗浄液の種類	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 具体的に記入。
積分時間（質量数毎）	数値（半角）入力。単位：秒。
質量数	数値（半角）入力。定量に用いた質量数1つを記入。
＜検量線の作成等＞	
定量方法 内標準法：内標準物質の種類	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 最高濃度の指示値	数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。吸光光度法では分液漏斗に取った量（ μg ）。 ICP では分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値 対象物質 内標準物質	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 標準添加法では、「標準添加の無い試料」の値を示す。 内標準法の場合のみ、数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 標準添加法では記入しない。
検出下限値	数値（半角）入力。単位：mg/L（試料中の濃度とする）。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	200文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。水質試料(COD)を参照する。

4-5 分析結果報告書 [5]

表 4-5 排水試料 (TOC) (分析結果報告書 [5])

＜分析結果＞	
分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位: mg/L。試料 1L あたりの mg として記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果 (検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401 によって数値を丸めて分析結果を有効数字 3 桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字 1 桁で記入。
(注) 検出下限: 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の 3 倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値) は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3 回の併行のために下記は 1 ~ 3 回で概略同様であり、1 回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3 回分を記入する。	
＜分析方法等＞	
開始月日 終了月日	コンボボックスより選択。開始日は分析 (前処理操作を含む) を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 分析方法 (原理 1) 分析方法 (原理 2) 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
＜測定＞	
TOC 計 メーカー 型式 製造年 (又は導入年)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 () 内に型式として機器の商品名 (型番) を記入する。 () 内に製造年 (又は導入年) を西暦 (半角) で記入する。
全炭素の測定 試料の希釈 試料 (又は希釈試料) の注入量	数値 (半角) 入力。希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。 数値 (半角) 入力。単位: μL 。
無機体炭素の測定	上記「全炭素の測定」と同じ。
有機体炭素の測定 無機体炭素の除去方法 試料の希釈 試料 (又は希釈試料) の注入量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。 数値 (半角) 入力。単位: μL 。
注 1) 全炭素と無機体炭素を測定して、計算により有機体炭素 (TOC) を求めた場合には、全炭素と無機体炭素の欄に記入し、有機体炭素の欄は記入しない。 注 2) 無機体炭素を除去した後に有機体炭素 (TOC) を測定した場合には、有機体炭素の欄に記入し、全炭素と無機体炭素の欄は記入しない。	
＜検量線の作成等 (全炭素) ＞	
定量方法 方法 内標準法: 内標準物質の種類	コンボボックスより選択。 具体的に記入。
検量線 作成点数 作成範囲 最小濃度	数値 (半角) 入力。整数。 数値 (半角) 入力。分析装置で測定する溶液中の量 (μg 、吸光光度法) 又は濃度 (mg/L、イオン電極法、イオンクロマトグラフ法) を記入。 「ゼロ (0)」は含めない。

最高濃度 最高濃度の指示値	数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。 ピーク面積、ピーク高さ等の数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 内標準法の場合のみ、ピーク面積、ピーク高さ等の数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 3回分を記入。
空試験の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
検出下限値	数値（半角）入力。試料中の濃度（mg/L）を示す。
全炭素の分析結果	数値（半角）入力。単位：mg/L（分析用試料中の濃度）。
<検量線の作成等（無機体炭素）>	上記<検量線の作成等（全炭素）>と同様に記入。
<検量線の作成等（有機体炭素）>	無機炭素を除去した後、有機炭素を測定した場合に記入。 記入方法、上記<検量線の作成等（全炭素）>と同じ。
<試料の保存状況>	
保存状況	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
保存方法等	
保存時間	数値（半角）入力。単位：時間。
保存温度	数値（半角）入力。単位：℃
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	200文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、水質試料（COD）を参照する。

4-6 分析結果報告書 [6]

表 4-6 排ガス試料（窒素酸化物）（分析結果報告書 [6]）

＜分析結果＞	
分析結果	<p>数値（半角）入力。単位：volppm。標準状態（0℃、101.32kPa）における試料ガス 1m³ あたりの分析対象物質の cm³ とする（乾きガス量で求める）。</p> <p>分析を実施した項目については、コンボボックスより「1. 実施」を選択し、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。分析を実施しない項目については、「2. 実施せず」を選択。分析結果については、測定回数分を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。</p>
・分析結果（検出下限値以上）	検出下限値以上では、分析結果を有効数字3桁（有効数字4桁目を四捨五入）で記入。
（検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
複数回の測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料量、指示値等については、測定回数分を記入する。	
＜分析方法等＞	
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
＜試料溶液の調製＞	
方法 方法1又は2の場合 試料（ガス）分取量 NOの酸化 定容量（試料溶液の量） 試料（ガス）分取量 （標準状態における乾きガス量）	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>（標準状態（0℃、101.32kPa）における乾きガス量（mL）を記入する（真空フラスコの内容容量又は注射筒に吸引したガス量の採取目盛から算出する。））</p>
＜亜鉛還元ナフチルエチレンジアミン吸光度法（Zn-NEDA法）＞	
還元の方法 亜鉛粉末の種類 振とう条件	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、方法、振とう時間を具体的に記入。</p>
＜フェノールジスルホン酸吸光度法（PDS法）＞	
蒸発の方法等 温度 時間	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。（ ）内には、数値（半角）入力。単位：℃。</p> <p>数値（半角）入力。単位：時間、分。</p>
＜吸光光度法＞	イオンクロマトグラフ法以外の方法で分析した場合には記入する。

試料溶液の分取量	数値（半角）入力。単位：mL。
吸収セルの光路長	数値（半角）入力。単位：mm。
波長	数値（半角）入力。単位：nm。
試料の吸光度	数値（半角）入力。測定回数分の指示値を記入する。
空試験の吸光度	数値（半角）入力。
検量線の作成 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲（量） 最小量	数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の量(mg)を記入。 「ゼロ(0)」は含めない。
最大量	数値（半角）入力。単位：最小量と同じ。
最大量の吸光度	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
＜イオンクロマトグラフ法＞	
試料溶液の希釈（希釈倍率）	数値（半角）入力。
注入量	数値（半角）入力。単位：μL。
試料の指示値	数値（半角）入力。硝酸イオンと亜硝酸イオンに分けて記入。
空試験の指示値	数値（半角）入力。硝酸イオンと亜硝酸イオンに分けて記入。
検量線の作成	硝酸イオンと亜硝酸イオンに分けて記入。
作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲（濃度） 最小濃度	数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最大濃度	数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。
最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
溶離液の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分離カラムの種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
メーカー型式	() 内に型式として機器の商品名（型番）を記入する。
ガードカラムの使用	コンボボックスより選択。
イオンクロマトグラム	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
メーカー区分	コンボボックスより選択。
型式	() 内に型式として機器の商品名（型番）を記入する。
製造年(又は導入年)	() 内に製造年（又は導入年）を西暦（半角）で記入する。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	200 文字以内で簡潔に記入する。
計算式	400 文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-7 分析結果報告書 [7]

排ガス試料に関する分析結果報告書[7]の入力方法の詳細を記します。

表 4-7 排ガス試料（硫黄酸化物）（分析結果報告書 [7]）

＜分析結果＞	
分析結果	数値（半角）入力。単位：volppm。標準状態（0℃、101.32kPa）における試料ガス 1m ³ あたりの分析対象物質の cm ³ とする（乾きガス量で求める）。 分析を実施した項目については、コンボボックスより「1. 実施」を選択し、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。分析を実施しない項目については、「2. 実施せず」を選択。分析結果については、測定回数分を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
・分析結果（検出下限値以上） （検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値以上では、分析結果を有効数字3桁（有効数字4桁目を四捨五入）で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
複数回の測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料量、指示値等については、測定回数分を記入する。	
＜分析方法等＞	
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の指示値（吸光度等）については、測定回数分を記入する。
＜試料溶液の調製＞	
方法 吸収瓶を用いて調製する方法 試料（ガス）分取量 吸収管の数 吸収液量（全体） 吸収液の種類 試料（ガス）分取量 （標準状態における乾きガス量）	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。 数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。 （標準状態（0℃、101.32kPa）における乾きガス量（mL）を記入する（真空フラスコの内容量又は注射筒に吸引したガス量の採取目盛から算出する。））
＜イオンクロマトグラフ法＞	
試料溶液の希釈（希釈倍率） 注入量 試料の指示値 空試験の指示値 検量線の作成 作成点数	数値（半角）入力。 数値（半角）入力。単位：μL。 数値（半角）入力。 数値（半角）入力。 数値（半角）入力。整数。

作成範囲 (濃度) 最小濃度	数値 (半角) 入力。分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) を記入。「ゼロ (0)」は含めない。
最大濃度	数値 (半角) 入力。単位: 最小濃度と同じ。
最高濃度の指示	数値 (半角) 入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
溶離液の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分離カラムの種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
メーカー	() 内に型式として機器の商品名 (型番) を記入する。
型式	
ガードカラムの使用	コンボボックスより選択。
イオンクロマトグラム	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
メーカー	コンボボックスより選択。
区分	() 内に型式として機器の商品名 (型番) を記入する。
型式	() 内に製造年 (又は導入年) を西暦 (半角) で記入する。
製造年 (又は導入年)	
< 沈殿滴定法 (アルセナゾⅢ法) >	
試料溶液の分取量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
試料の滴定量 (5mmol/L 酢酸バリウム溶液の量)	数値 (半角) 入力。単位: mL。測定回数分の指示値を記入する
空試験の滴定量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
< 沈殿滴定法 (トリン法) >	
< 沈殿滴定法 (アルセナゾⅢ法) >と同様に記入。	
< 比濁法 (光散乱法) >	
試料溶液の分取量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
吸収セルの光路長	数値 (半角) 入力。単位: mm。
波長	数値 (半角) 入力。単位: nm。
試料の吸光度	数値 (半角) 入力。
空試験の吸光度	数値 (半角) 入力。
検量線の作成 作成点数	数値 (半角) 入力。整数。
作成範囲 (量) 最小量	数値 (半角) 入力。分析装置で測定する溶液中の量 (mg) を記入。「ゼロ (0)」は含めない。
最大量	数値 (半角) 入力。単位: 最小量と同じ。
最高濃度の吸光度	数値 (半角) 入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
< 中和滴定法 >	
試料溶液の分取量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
試料の滴定量 (0.05mol/L 水酸化ナトリウム溶液の量)	数値 (半角) 入力。単位: mL。測定回数分の指示値を記入する。
空試験の滴定量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
< イオン電極法 >	
試料の希釈 (希釈倍率)	数値 (半角) 入力。
試料の指示値	数値 (半角) 入力。測定回数分の指示値を記入する
空試験の指示値	数値 (半角) 入力。
検量線の作成 作成点数	数値 (半角) 入力。整数。
作成範囲 (濃度) 最小濃度	数値 (半角) 入力。分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) を記入。「ゼロ (0)」は含めない。
最大濃度	数値 (半角) 入力。単位: 最小濃度と同じ。
最高濃度の指示値	数値 (半角) 入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
定量方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。

4-8 分析結果報告書 [8]

模擬水質試料に関する分析結果報告書 [8] の入力方法の詳細を記します。

表 4-8 模擬水質試料（揮発性有機化合物）（分析結果報告書 [8]）

<VOC 分析の経験等>	
環境水・地下水・土壌等としての分析 有害大気汚染物質としての分析	いずれも、コンボボックスより選択。
<分析結果：詳細項目>	
分析の実施	コンボボックスより選択。
分析結果	数値（半角）入力。単位：mg/L。試料 1L あたりの mg として記入。 分析を実施した項目については、コンボボックスより「1. 実施」を選択し、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。分析を実施しない項目については、「2. 実施せず」を選択。分析結果については、測定回数分を記入。例えば、1 回測定の場合には、「1 回目の分析結果」欄に記入し、「2～5 回目の分析結果」欄は記入しない。
・分析結果（検出下限値以上） （検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値以上では、JIS Z 8401 によって数値を丸めて分析結果を有効数字 3 桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字 1 桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の 3 倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
複数回の測定を行った場合には、1 回目の分析条件を記入する。ただし、試料量、指示値等については、測定回数分を記入する。	
<分析結果：参照項目>	上記、<分析結果：詳細項目>と同様に記入。
<分析方法等>	
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「8. その他」を選んだ場合には、具体的に記入。分析を実施していない項目については、「0」を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「1. ミネラルウォーター」を選択した場合は、記入欄に商品名を具体的に記入。また「5. その他」を選んだ場合には、記入欄に具体的に記入。
<パージ・トラップ法>	
同一条件で分析した項目 （複数回答可）	コンボボックスより選択。「1. 報告した全項目」を含む複数回答は不可。
パージ管に導入した試料量 （オートサンプラーバイリンの容量ではない）	数値（半角）入力。単位：mL。「1～n 回目まで全て同じ量」の（ ）内に数値を入力した場合には、1～5 回目の（ ）内への数値の入力は不要。また 1 回でも試料量が異なる場合には、個別に数値を記入。例えば、3 回測定を実施し、3 回目のみ試料量が異なる場合には、1 回目（40）、2 回目（40）、3 回目（4）と入力し、「1～n 回目まで全て同じ量」の（ ）内に数値は入力しない。
パージ・トラップ 装置 メーカー・型式 製造年（又は導入年）	（ ）内にメーカー名と機器の商品名（型番）を記入する。 （ ）内に製造年（又は導入年）を西暦（半角）で記入する。
パージ管 容積	数値（半角）入力。単位：mL。
パージ条件 ガス	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。

ページ管ヒーター 流量・時間		コンボボックスより選択。()内には数値(半角)入力。単位:℃。 数値(半角)入力。単位:mL/分、分。
トラップ管の充填剤		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
ドライブ条件 ガス 流量・時間		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL/分、分。
トラップ管の脱着温度		数値(半角)入力。単位:℃、分。
クワイフォーカスの使用 脱着温度		コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位:℃、分。
P&TサンプラーからGCカラム導入時の スプリット設定		コンボボックスより選択。()内には数値(半角)入力。スプリット比は、前の()内にP&Tサンプラー、後ろの()内にGCカラム導入の比を記入する。
<ヘッドスペース法>		<ヘッドスペース条件A~F>
同一条件で分析した項目 (複数回答可)		コンボボックスより選択。「1. 報告した全項目」を含む複数回答は不可。
試料量		数値(半角)入力。単位:mL。「1~n回目まで全て同じ量」の()内に数値を入力した場合には、1~5回目の()内への数値の入力は不要。また、1回でも試料量が異なる場合には、個別に数値を記入。例えば、3回測定を実施し、3回目のみ試料量が異なる場合には、1回目(40)、2回目(40)、3回目(4)と入力し、「1~n回目まで全て同じ量」の()内に数値は入力しない。
希釈操作		コンボボックスより選択。()内には数値(半角)入力。
バイアル容積		数値(半角)入力。単位:mL。
塩析有り 塩化ナトリウムの添加量		コンボボックスより選択。()内には数値(半角)入力。単位:g/バイアル。 数値(半角)入力。単位については、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
その他添加試薬 種類 添加量		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位については、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
ヘッドスペース 装置 メーカー・型式 製造年(又は導入年)		()内にメーカー名と機器の商品名(型番)を記入する。 ()内に製造年(又は導入年)を西暦(半角)で記入する。
平衡化条件 温度・時間		数値(半角)入力。単位:℃、分。
GCへの導入方式		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 「トラップ管の種類」の()内には具体的に記入。それ以外の()内には数値(半角)入力。
1回のページ流量・時間		数値(半角)入力。単位:mL/分、分。
<溶媒抽出法>		
同一条件で分析した項目 (複数回答可)		コンボボックスより選択。「1. 報告した全項目」を含む複数回答は不可。
試料量		数値(半角)入力。単位:mL。「1~n回目まで全て同じ量」の()内に数値を入力した場合には、1~5回目の()内への数値の入力は不要。また、1回でも試料量が異なる場合には、個別に数値を記入。例えば、3回測定を実施し、3回目のみ試料量が異なる場合には、1回目(40)、2回目(40)、3回目(4)と入力し、「1~n回目まで全て同じ量」の()内に数値は入力しない。
溶媒 種類 量		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL。

振とう時間	数値（半角）入力。単位：秒。
溶媒の希釈	数値（半角）入力。希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。
GCへの注入量	数値（半角）入力。単位： μ L。
その他の方法	() 内に具体的に記入。
<固相抽出法：1,4-ジメチル>	
試料量	数値（半角）入力。単位：mL。「1～n回目まで全て同じ量」の()内に数値を入力した場合には、1～5回目の()内への数値の入力は不要。また、1回でも試料量が異なる場合には、個別に数値を記入。例えば、3回測定を実施し、3回目のみ試料量が異なる場合には、1回目(40)、2回目(40)、3回目(4)と入力し、「1～n回目まで全て同じ量」の()内に数値は入力しない。
サロゲート物質 使用の有無 種類 添加量 溶媒	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 ()内には数値（半角）入力。単位： μ g/mL、 μ L。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
固相 種類 活性炭カラムの連結個数 カラムの活性炭充填量 通水速度 脱水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：個。 数値（半角）入力。単位：g/カラム。 数値（半角）入力。単位：mL/分。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
溶出 溶媒種類 量 流速	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。 数値（半角）入力。単位：mL/分。
最終試験液の定容量	数値（半角）入力。単位：mL。
GCへの注入量	数値（半角）入力。単位： μ L。
<固相抽出法のサロゲート回収率>	
サロゲート物質	「その他」の場合には、()内に物質名を具体的に記入。
試料 空試験	数値（半角）入力。単位：%。測定回数分の数値を記入する。
<GC/FID、GC/ECD、GC/MS法：共通>	
<GC/FID、GC/ECD、GC/MS条件：A～F>	
同一条件で分析した項目 (複数回答可)	コンボボックスより選択。「1. 報告した全項目」を含む複数回答は不可。
GC/FID・GC/ECD メーカー 型式 製造年(又は導入年)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 ()内に機器の商品名(型番)を記入する。 ()内に製造年(又は導入年)を西暦(半角)で記入する。
GC/FID・GC/ECD 検出器 検出器温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位： $^{\circ}$ C。
GC/MS メーカー 型式(注2) 製造年(又は導入年)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 ()内に型式として機器の商品名(型番)を記入する。 ()内に製造年(又は導入年)を西暦(半角)で記入する。
MS 装置型式 イオン検出法 イオン化方法 電圧エネルギー フィラメント電流 イオン源温度 インターフェイス(トランスファーライン)温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：eV。 数値（半角）入力。単位： μ A。 数値（半角）入力。単位： $^{\circ}$ C。 数値（半角）入力。単位： $^{\circ}$ C。

カラム	メーカー 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 () 内に型式としてカラムの商品名 (型番) を記入する。 数値 (半角) 入力。単位: mm。 数値 (半角) 入力。単位: mm。 数値 (半角) 入力。単位: μm 。
昇温条件	初期 1 回目の昇温 2 回目の昇温 3 回目の昇温 4 回目の昇温 (5 回以上の昇温の場合) 昇温回数	数値 (半角) 入力。単位: $^{\circ}\text{C}$ 、分。 数値 (半角) 入力。単位: 回。
注入条件	注入口温度 注入方式	数値 (半角) 入力。単位: $^{\circ}\text{C}$ 。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 2 又は 5 を選択した場合には、() 内にはスプリット比として、数値 (半角) 入力。
制御モード		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
キャリアガス条件	種類 流量・圧力	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位については、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
メイクアップガス条件	種類 流量・圧力	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位については、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<GC/MS 法: 定量用質量数及び確認用質量数>		
定量用質量 確認用質量 内標準物質		いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、m/z の数値 (半角) 入力。 その他の内標物質を使用している場合には、() 内に物質名を記入する。
<標準原液>		
購入・自作の区分 混合・個別標準液の区分		いずれも、コンボボックスより選択。
購入メーカー		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
標準原液の保管方法		コンボボックスより選択。
<検量線用標準液の保存方法>		
保存状況	保存方法等 保存日数 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位: 日。0.5 日単位で記入する。 数値 (半角) 入力。単位: $^{\circ}\text{C}$ 。
<検量線の作成等: A~F>		
同一条件で分析した項目 (複数回答可)		コンボボックスより選択。「1. 報告した全項目」を含む複数回答は不可。
定量方法		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
内標準物質 使用の有無 種類 (複数回答可) 添加量 フルオロベンゼン 4-ブロモフルオロベンゼン その他内標準物質 溶媒 添加方法		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位: $\mu\text{g/mL}$ 、 μL /バレル。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。

＜検量線の範囲・指示値等＞		
検量線作成範囲の単位		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線作成範囲 作成点数		数値（半角）入力。整数。
最小濃度		数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。 「ゼロ(0)」は含めない。
最大濃度		数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。
検量線最高濃度	対象物質 内標準物質	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
空試験	対象物質 内標準物質	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
定量用内標準物質の番号		コンボボックスより選択。
＜試料の指示値等＞		
希釈倍率		数値（半角）入力。希釈しない場合は希釈倍率「1」とする。
試料の指示値	対象物質 内標準物質	数値（半角）入力。
＜検出下限＞		
検出下限	装置 試料	数値（半角）入力。単位：mg/L。 HS 法及び P&T 法以外の濃縮操作を伴う分析方法を採用した場合は、装置検出下限と試料換算検出下限値を記入する。それら以外の分析法を採用した場合は、装置検出下限のみを記入する。
＜試料の保存状況＞		
保存状況	保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：時間。 数値（半角）入力。単位：℃。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点		200 文字以内で簡潔に記入する。
計算式		200 文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-9 アンケート

○ホームページによる分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

ホームページからの分析結果報告書の作成に関するアンケートについては、分析結果報告書メニュー（図4-9.1参照）の右の[アンケート]ボタンをクリックすると、アンケート内容が表示されます。

アンケートの内容は、試料ごと（3区分）になっています。

報告書一覧表			
	名称	入力状態	アンケート
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]模擬排水試料(COD)	未入力	-
<input type="radio"/>	報告書[2]模擬排水試料(BOD)	未入力	無し
<input type="radio"/>	報告書[3]模擬排水試料(ふっ素)	未入力	無し
<input type="radio"/>	報告書[4]模擬排水試料(ほう素)	未入力	無し
<input type="radio"/>	報告書[5]排水試料(TOC)	未入力	無し
<input type="radio"/>	報告書[6]排ガス試料(窒素酸化物)	未入力	無し
<input type="radio"/>	報告書[7]排ガス試料(硫黄酸化物)	未入力	無し
<input type="radio"/>	報告書[8]模擬水質試料(揮発性有機化合物)	未入力	無し
	調査に関するアンケート	入力済	

図 4-9.1 分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

いずれの試料とも、質問はコンボボックスより選択します。「2」を選択した場合には（ ）内には具体的な理由又は内容を記入してください。「確定」等の操作は必要ありません。

分析結果報告書の作成時に感じた点等	1. 良い 2. 改良すべき点、問題点等がある 内容（ ）
-------------------	----------------------------------

○環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケート

環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケートについては、分析結果報告書メニュー(図4-9.2参照)の下部[調査に関するアンケート]ボタンをクリックすると、アンケート内容が表示されます。

質問はコンボボックスより選択し、()内には具体的に記入してください。

アンケートは、各機関ひとつの回答となります(試料ごとの回答ではありません)。

「入力状態」については、質問の回答途中では「入力中」、回答が済みましたら「入力済み」と表示されます。「確定」等の操作は必要ありません。



図 4-9.2 分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

機関の区分 (ひとつを選択)	1. 地方公共団体 2. 民間分析機関 (公益法人を含む) 3. その他 ()
アンケート回答者の担当 業務の区分 (ひとつを選択)	1. 環境測定分析業務の担当者 2. 環境測定分析業務の管理者 3. 環境測定分析委託業務の担当者 (委託する側の担当者) 4. 環境測定分析委託業務の管理者 (委託する側の管理者) 5. その他 ()
内部精度管理の実施状況 (複数回答可)	1. 定期的・自主的な同一試料の二重測定、ブランク試験 2. 定期的な添加回収試験 3. 市販の標準試料の測定 4. 自前の濃度既知試料の測定 5. その他 ()
調査に参加する目的 (複数回答可)	1. 信頼性の確保、精度の確認等 2. 分析方法・分析技術・分析機器の確認・改善等
調査の効果	1. 精度の確認が出きた (できる)